

平成 29 年度 第 280 回教育研究審議会議事要録

日時 平成 29 年 12 月 5 日 (火) 13:30～16:00
場所 北方キャンパス本館 E701 会議室
出席者 松尾学長、柳井副学長、梶原副学長、二宮副学長、中尾副学長、田上事務局長、大平外国語学部長、朱経済学部長、田部井文学部長、小野法学部長、眞鍋地域創生学群長、龍国際環境工学部長、日高基盤教育センター長、八百社会システム研究科長、任マネジメント研究科長、今泉学生部長、田村教務部長、後藤入試広報センター長、佐藤情報総合センター長、廣渡評価室副室長

配布資料

- 1-1 教員採用選考報告書 (法学部)
- 1-2 教員採用選考報告書 (法学部)
- 1-3 教員採用選考報告書 (国際環境工学部)
- 1-4 教員採用選考報告書 (環境技術研究所)
- 2 平成30年度学年暦案及びこれに伴う学則などの改正について
- 3 英米学科の改編について

第 1 号 教員の人事について

* 資料1-1のとおり、法学部法律学科の行政法学担当教員採用人事について、選考委員会から採用候補者 (堀澤明生氏) の選考結果の報告がなされ、同報告に基づき採用候補者の採用について提案。

【議長】 提案について、承認してよろしいか。

【委員全員】 (異議なし)

* 資料1-2のとおり、法学部法律学科の刑事学担当教員採用人事について、選考委員会から適任者が得られなかった旨を報告。

【議長】 提案について、承認してよろしいか。

【委員全員】 (異議なし)

* 資料1-3のとおり、国際環境工学部建築デザイン学科の建築構造・施工分野担当教員採用人事について、選考委員会から採用候補者 (藤田慎之輔氏) の選考結果の報告がなされ、同報告に基づき採用候補者の採用について提案。

- 設計事務所所員の期間が教歴となっているが、研究職に相当するのか。
- 当該教歴の期間中、6本の研究業績があり、本人に確認したところ、研究部門で研究していたとのことである。
- 業績評価書中の修士論文のタイトルが、教育研究業績書と異なっている。誤りではないか。
- 業績評価書を修正したい。
- 教育研究業績書中、開催年次が異なる同じ名称のシンポジウムにおいて、査読付論文と学会報告がある。国内のシンポジウムは査読付でないことが多いが、これは査読付なのか。みなし資格歴及び選考に影響はないと考えられるが、確認をお願いしたい。

【議長】 一部資料修正のうえ、提案について承認してよろしいか。

【委員全員】 (異議なし)

* 資料1-4のとおり、環境技術研究所の環境マネジメント分野、特にエネルギーマネジメント分野担当教員採用人事について、選考委員会から採用候補者（藤山淳史氏）の選考結果の報告がなされ、同報告に基づき採用候補者の採用について提案。

- 資格選考調書において助教の教歴を10割で換算しているが、業績評価書では教育について実務経験が必要と判断されている。この点は整合が取れているか。
- 助教の教歴については10割相当であると認定した。みなし資格歴では准教授相当であるが、成績評価などの実務経験がないため、講師相当であると判断し、そのように記載した。
- 業績評価書中、内容に誤解が生じる箇所がある。意味を明確にするため、記載を修正したほうが良いのではないか。
- ご指摘のとおり修正したい。

【議長】一部資料修正のうえ、提案について、承認してよろしいか。

【委員全員】（異議なし）

第2号 学年暦変更に伴う学則及び大学院学則の改正について

* 資料2のとおり、学年暦変更に伴う学則及び大学院学則の改正、並びに平成30年度の学年暦について提案。

- 北方の学部・学群及びマネジメント研究科の学年暦において、平成30年度以降は9月末の数日程度、2学期の授業を前倒して行えるよう学則と大学院学則を変更するもの。これを踏まえて、平成30年度の学年暦を提案するもの。
- 10月入学の関係上、社会システム研究科、法学研究科、ひびきのキャンパスでは実施を見送った。2学期の始期を動かすような抜本的な改正も含め、検討をお願いしたい。
- 新カリキュラムでは、ひびきの連携科目のうち2学期に配当される科目が出てくる。早い段階でひびきのキャンパスも北方キャンパスにあわせる必要がある。
- 公立大学のうちの半数くらいが1学期中に2学期の授業を開始している。授業料や学籍異動等の問題があり、今回の改正が最も影響が少ないと思われる。今後も他大学の例を参考にしつつ検討していきたい。
- 学則の改正案で「授業の一部」としなかったのはなぜか。
- 集中講義（2学期配当科目）のこともあり、このような表記とした。
- 今までは、教員の研修等の諸事情により各学部判断で配当学期を変更することもあったが、根拠規程がある以上、これ以外の運用はできないということになるのか。
- 従前の運用には影響しないと考えている。
- いろいろな課題で全学を一挙に変えることができず、今回はこの形での改正としたい。今後、実際に運用していきながら引き続き検討していく。

【議長】提案について、承認してよろしいか。

【委員全員】（異議なし）

第3号 英米学科の改編について

* 資料3のとおり、英米学科の改編について提案。

- 英米学科の改編について、第29回組織人事委員会での審議結果を踏まえ、第27回組織人事委員会及び第278回教育研究審議会における意見への対応と今後の取組を提案するもの。教研審承認後、役員会で承認が得られれば、PR活動を早急に開始するとともに、全学的な「グローバル人材育成推進事業」の後継となるプログラムの整備も進めていくことにしている。
- 専門入門科目の科目名について、「Comparative Cultures」を「Cultural Comparison」に変更するなどご配慮をいただいている。これについて比較文化学科との協議は行っているのか。また、

住み分けはどのように考えているか。

- 学科長には承諾をいただいている。
- 住み分けの問題は、学生の目線で考えていくことが重要である。学部間で協力して進めていただきたい。
- 3つのプログラムについて、学生は入学の段階でプログラムを選ぶのか、また、選択後状況に応じて変更してもいいのか。一方でどのプログラムの科目も自由に取れると聞いているが、履修モデルについて、どの程度の縛りになるのか。
- 当初は厳格にコース分けすることを考えていたが、科目配置等を検討する中で、学生が取りやすいように、コースではなくプログラムとした。しかし、どこからでも適当にということではなく、自分の所属するプログラムから多くとってもらうように考えている。2年次から各プログラムに分かれるので、1年次で3つのプログラムについて熟知させるようにする。
- コアプログラムで何単位以上取るというような縛りになると思われる。一方で、コアプログラムとゼミはある程度自由度があるような制度設計、枠組みにしている。プログラムの登録方法や変更など、学務システムとの調整があり、今後詰めの作業を行いたい。広報を始めないといけないが、枠組みはこれで行こうと考えている。入学して何が勉強できるかを中心に作っている。
- 卒業に必要な単位が取れない学生が出てくるのが心配だが、そのあたりはどうか。
- そうした事態が起こらないように緩やかに設計している。
- 全国推薦入試枠を18名としているが、募集の見込みはどうか。
- 高校訪問に力を入れていく。具体的に高校生に説明をしていく段階でどれだけの魅力を提示できるか、ビジネス系を中心として、履修モデルが高校生の心に響くかどうかということだと思う。
- 高校訪問にあまりとらわれると足元をすくわれると思う。非常に良いカリキュラムや内容を作っているのをこれを受験生にどう発信するかが重要である。高校生や先生はブランドみたいなものでしか理解していない。英米学科がどういう学科かということを端的に伝えられるようなツールやメッセージを議論したら良いと思う。あとはデザイン等でうまく表現ができれば、全国から集まると思う。高校訪問での勝負では私学に勝てない。そこはむしろ最低限で良いのではないか。
- 地域創生学群の場合、高校の先生からよく言われるのは、学生の話す内容が他大学に進学した学生とは全く違うということであり、それがブランドにつながっている。高校の先生方にとって、学生の声というのは信憑性が高いし、そういう学科なら行かせてみようかという気になる。
- 1年次の1学期は専門科目がほとんどなく、高校に持って帰る材料がないと思うがどうか。
- 初年次の英語集中プログラムが非常に重要だと考えている。
- グローバルに活躍できる人材を育てるとするのは各学部で言っていることで、差別化をどのように図っていくかが重要である。受験生や進路担当者から違いを聞かれたときに、上手に大学全体の受験者増につなげる工夫が必要だと思う。近隣大学との競合もあり、難しいと思うが、広報も頑張ってもらいたい。17名の担任制で補習を含めて頑張っていくというのは頼もしいが、それでもやはりミスマッチで入った等で転学部転学科を勧めることもあると思うので、手厚いサポートをお願いしたい。全学的なバックアップの体制が必要だと感じている。
- ワンサイクルをまわす中で入試別に追跡調査でデータを蓄積するなどして、それを踏まえて定員の調整をお願いしたい。
- 今後の大学入試改革への対応も踏まえて、推薦要件も含め、2、3年後を目途に見直しや再構築をしていく。
- これから実務的に解決すべき問題もあるが、今回を最終報告としたい。実際の運用において新たな問題点が出てくると思うが、全学的な取組として先生方のご協力をお願いしたい。

【議長】提案について、承認してよろしいか。

【委員全員】（異議なし）

報告

- ① 次回の審議会を平成29年12月19日（火）にひびきのキャンパスで開催する予定である旨、報告があった。